

福島工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	防災通信工学	
科目基礎情報							
科目番号	0127			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	講義・演習			単位の種別と単位数	学修単位: 1		
開設学科	建設環境工学科 (R2年度開講分まで)			対象学年	5		
開設期	後期			週時間数	1		
教科書/教材	防災土教本 日本防災士機構						
担当教員	霜田 宜久						
到達目標							
①地域防災計画について、予防計画や緊急時対応など防災・減災に向けた対策の全体像の概要を理解する。 ②防災士の資格取得を目指す。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		各授業項目の内容を理解し、応用できる。		各授業項目の内容を理解している。		各授業項目の内容を理解していない。	
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		地域の防災に関する全体像をまとめた地域防災計画について、理解を深める。 住む人の視点から各種災害に対する防災・減災について理解し、災害時に対応できるようにする。 この科目は、地方公共団体等で防災関連の業務経験を持つ教員が、その経験を活かして講義を行う。					
授業の進め方・方法		中間、期末試験とともに50分間の試験を実施する。 定期試験80%、レポート等を20%として総合的に評価し、60点以上を合格とする。 この科目は学修単位科目のため、事前、事後の学習として、レポートを実施する。					
注意点		随時小テストを実施するので、授業中もその対応ができるようにしておく。					
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	災害予防計画 1 (ハード面)			地震災害とその対策	
		2週	災害予防計画 2 (ハード面)			水害とその対策	
		3週	災害予防計画 3 (ハード面)			津波災害とその対策	
		4週	災害予防計画 4 (ハード面)			土砂災害とその対策	
		5週	災害予防計画 5 (ハード面)			原子力災害とその対策	
		6週	災害予防計画 6 (ハード面)			火災とその対策	
		7週	後期中間試験				
		8週	災害予防計画 7 (ソフト面)			通信体制、各種警報	
	4thQ	9週	災害予防計画 8 (ソフト面)			行政の災害対応、自主防災組織、N P O等の防災の取り組みと連携	
		10週	災害緊急・復旧対策 1			初動態勢、緊急輸送、ライフライン	
		11週	災害緊急・復旧対策 2			救助・救急対策、応急手当、災害医療	
		12週	災害緊急・復旧対策 3			避難と避難行動、避難所の運営	
		13週	災害緊急・復旧対策 4			公共・公益施設の復旧、住宅対策	
		14週	災害緊急・復旧対策 5			身近でできる防災対策	
		15週	総論			まとめ、レポート提出	
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	工学基礎	工学実験技術(各種測定方法、データ処理、考察方法)	工学実験技術(各種測定方法、データ処理、考察方法)	物理、化学、情報、工学における基礎的な原理や現象を明らかにするための実験手法、実験手順について説明できる。	3		
				実験装置や測定器の操作、及び実験器具・試薬・材料の正しい取扱を身に付け、安全に実験できる。	3		
				実験データの分析、誤差解析、有効桁数の評価、整理の仕方、考察の論理性に配慮して実践できる。	3		
				実験テーマの目的に沿って実験・測定結果の妥当性など実験データについて論理的な考察ができる。	3		
				実験ノートや実験レポートの記載方法に沿ってレポート作成を実践できる。	3		
				実験データを適切なグラフや図、表など用いて表現できる。	3		
				実験の考察などに必要な文献、参考資料などを収集できる。	3		
				実験・実習を安全性や禁止事項など配慮して実践できる。	3		
				個人・複数名での実験・実習であっても役割を意識して主体的に取り組むことができる。	3		
				共同実験における基本的ルールを把握し、実践できる。	3		
レポートを期限内に提出できるように計画を立て、それを実践できる。	3						
専門的能力	分野別の専門工学	建設系分野	地盤	土の生成、基本的物理量、構造などについて、説明できる。	3		

				土の粒径・粒度分布やコンシステンシーを理解し、地盤材料の工学的分類に適用できる。	3		
				土の締固め特性を説明できる。	3		
				ダルシーの法則を説明できる。	3		
				透水係数と透水試験について、説明できる。	3		
				透水力による浸透破壊現象を説明できる。	3		
				土のせん断試験を説明できる。	3		
				土のせん断特性を説明できる。	3		
				土の破壊規準を説明できる。	3		
				地盤内応力を説明できる。	3		
				土の圧密現象及び一次元圧密理論について、説明できる。	3		
				圧密沈下の計算を説明できる。	3		
				有効応力の原理を説明できる。	3		
				ランキン土圧やクーロン土圧を説明でき、土圧算定に適用できる。	3		
				基礎の種類とそれらの支持力公式を説明でき、土の構造物の支持力算定に適用できる。	3		
				斜面の安定計算手法を説明でき、安全率等の算定に適用できる。	3		
				飽和砂の液状化メカニズムを説明できる。	3		
				地盤改良工法や液状化対策工法について、説明できる。	3		
				地盤調査の分類と内容について、説明できる。	4		
				水理	水理学で用いる単位系を説明できる。	4	
					静水圧の表現、強さ、作用する方向について、説明できる。	4	
					平面と曲面に作用する全水圧の大きさと作用点を計算できる。	4	
					浮力と浮体の安定を計算できる。	4	
					完全流体の運動方程式(Eulerの運動方程式)を説明できる。	4	
					連続の式を説明できる。	4	
					ベルヌーイの定理を説明でき、これを応用(ベンチュリーメータなど)した計算ができる。	4	
					運動量保存則を説明でき、これを応用した計算ができる。	4	
					比エネルギー、フルード数、常流と射流、限界水深(ベスの定理、ペランジェの定理)、跳水現象について、説明できる。	4	
					層流と乱流について、説明できる。	4	
					流体摩擦(レイノルズ応力、混合距離)を説明できる。	4	
					管水路の摩擦以外の損失係数について、説明できる。	4	
					各種の管路の流れが計算できる。	4	
					開水路の等流(平均流速公式、限界水深、等流水深)について、計算できる。	4	
					開水路不等流の基礎方程式を説明できる。	4	
					河川の分類と流域について、説明できる。	4	
					河川の管理と整備について、説明できる。	4	
					水の循環、雨が降る仕組み、我が国の降雨特性について、説明できる。	4	
					水文量の観測方法を説明でき、流域平均雨量を計算できる。	4	
					河道およびダムによる洪水対策を説明できる。	4	
					都市型水害と内水処理の対策について、説明できる。	4	
					日本の水資源の現況について、説明できる。	4	
					河川堤防・護岸・水制の役割について、説明できる。	4	
					津波と高潮の特徴を説明できる。	4	
					波の基本的性質を説明できる。	4	
				計画	国土と地域の定義を説明できる。	4	
					日本、世界における古代、中世および現代の都市計画の思想および理念と実際について、説明できる。	4	
					都市計画法と都市計画関連法の概要について、説明できる。	4	
					土地利用計画と交通計画について、説明できる。	4	
					総合計画とマスタープランについて、説明できる。	4	
					都市計画区域の区域区分と用途地域について、説明できる。	4	
					交通流調査(交通量調査、速度調査)、交通流動調査(パーソントリップ調査、自動車OD調査)について、説明できる。	4	
					交通需要予測(4段階推定)について、説明できる。	4	
					緑化と環境整備(緑の基本計画)について、説明できる。	4	
					風景、景観と景観要素について、説明できる。	4	
					都市の防災構造化を説明できる。	4	
					土地区画整理事業を説明できる。	4	
					市街地開発・再開発事業を説明できる。	4	
					交通流、交通量の特性、交通容量について、説明できる。	4	
					性能指標に関する道路構造令の概要を説明できる。	4	

				計画の意義と計画学の考え方を説明できる。	4	
				二項分布、ポアソン分布、正規分布(和・差の分布)、ガンベル分布、同時確率密度関数を説明できる。	4	
				重回帰分析を説明できる。	4	
				線形計画法(図解法、シンプレックス法)を説明できる。	4	
				費用便益分析について考え方を説明でき、これに関する計算ができる。	4	
			施工・法規	工事執行までの各プロセスを説明できる。	4	
				施工計画の基本事項を説明できる。	4	
				品質管理、原価管理、工程管理、安全衛生管理、環境管理の仕組みについて、説明できる。	4	
				建設機械の概要を説明できる。	4	
				主な建設機械の作業能力算定法を説明できる。	4	
				土工の目的と施工法について、説明できる。	4	
				掘削と運搬および盛土と締固めの方法について、説明できる。	4	
				基礎工の種類別に目的と施工法について、説明できる。	4	
				コンクリート工の目的と施工法について、説明できる。	4	
				型枠工・鉄筋工・足場支保工・打設工の流れについて、説明できる。	4	
				トンネル工の目的と施工法について、説明できる。	4	
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	日本語と特定の外国語の文章を読み、その内容を把握できる。	4	
				他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で正しい文章を記述できる。	4	
				他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。	4	
				日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。	4	
				円滑なコミュニケーションのために図表を用意できる。	4	
				円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる(相づち、繰り返し、ボディランゲージなど)。	4	
				他者の意見を聞き合意形成することができる。	4	
				合意形成のために会話を成立させることができる。	4	
				グループワーク、ワークショップ等の特定の合意形成の方法を実践できる。	4	
				書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に収集することができる。	4	
				収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情報を選択できる。	4	
				収集した情報源や引用元などの信頼性・正確性に配慮する必要があることを知っている。	4	
				情報発信にあたっては、発信する内容及びその影響範囲について自己責任が発生することを知っている。	4	
				情報発信にあたっては、個人情報および著作権への配慮が必要であることを知っている。	4	
				目的や対象者に応じて適切なツールや手法を用いて正しく情報発信(プレゼンテーション)できる。	4	
				あるべき姿と現状との差異(課題)を認識するための情報収集ができる。	4	
				複数の情報を整理・構造化できる。	4	
				特性要因図、樹形図、ロジックツリーなど課題発見・現状分析のために効果的な図や表を用いることができる。	4	
				課題の解決は直感や常識にとらわれず、論理的な手順で考えなければならないことを知っている。	4	
				グループワーク、ワークショップ等による課題解決への論理的・合理的な思考方法としてブレインストーミングやKJ法、PCM法等の発想法、計画立案手法など任意の方法を用いることができる。	4	
				どのような過程で結論を導いたか思考の過程を他者に説明できる。	4	
				適切な範囲やレベルで解決策を提案できる。	4	
				事実をもとに論理や考察を展開できる。	4	
				結論への過程の論理性を言葉、文章、図表などを用いて表現できる。	4	

評価割合							
	試験	レポート	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	20	0	0	0	0	100
基礎的能力	80	20	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0